

令和6年度 千葉県における「まいわし太平洋系群」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

(1) 千葉県におけるマイワシの漁業実態

千葉県におけるマイワシは、太平洋系群に位置付けられており、銚子沖から内房海域にかけて、主にまき網漁業、定置網漁業により漁獲されている。令和4年の海面漁業生産統計では、本県の海面漁業の生産量のうち、マイワシの漁獲が約6割を占めており、本県の主要漁獲対象種となっている。

また、マイワシは国の重要魚種であることから国による漁獲可能量（TAC）管理がなされており、千葉県は、国全体の漁獲量のおおむね80パーセントの漁獲量を構成する漁獲量上位の都道府県に該当しないため、「現行水準」としての管理がなされており、配分量は示されず、漁獲努力量を通じた管理を行っている。

(2) 資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

①目標（資源管理基本方針に定める目標）

- 1 目標管理基準値 1,187千トン（最大持続生産量を達成するために必要な親魚量）
- 2 限界管理基準値 487千トン（最大持続生産量の60パーセントを達成するために必要な親魚量）

②該当する資源管理協定

「まいわし太平洋系群」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表の11協定で、約20名がマイワシを対象とするそれぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、3協定となっている。

協定	備考	協定	備考	協定	備考
天羽		館山		夷隅東部	
鋸南町保田・波左間		東安房（本所）	◎	九十九里	
鋸南町勝山	◎	東安房（和田）	◎	海匝	
岩井富浦		鴨川市			

◎ 本検証の対象協定

③自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考（該当する協定）
定置漁業	◎ 休漁期間の設定	①6から12月の間、大型定置、小型定置それぞれ合計約2週間 ②8から9月のうち約2週間 ③9月中旬頃から1ヶ月程度	①鋸南町勝山 ②東安房（本所） ③東安房（和田）

◎ 協定に記載されている取組

(3) 資源管理の効果の検証

本県におけるマイワシの漁獲量は、年による変動が大きく、過去には最大で約 40 万トンの漁獲があったが、直近 5 か年（2018～2022）の平均では約 5 万トンとなっている（図 1）。

国の令和 6 年(2024)度資源評価では、親魚資源量は増加傾向であり（図 2）、親魚量は最大持続生産量（MSY）を実現する水準を上回るが、漁獲圧も上回っているため、神戸プロットでは右上の黄色ゾーンとなっている（図 3）。

また協定参加者による検証（以下、「自己点検」という。）では、漁獲量及び CPUE（単位努力量あたり漁獲量）が、3 協定中 2 協定で減少と判断しており、国の資源評価結果と一致していない。また、魚価（単価）は 3 協定中 2 協定で維持、1 協定で上昇と判断している。

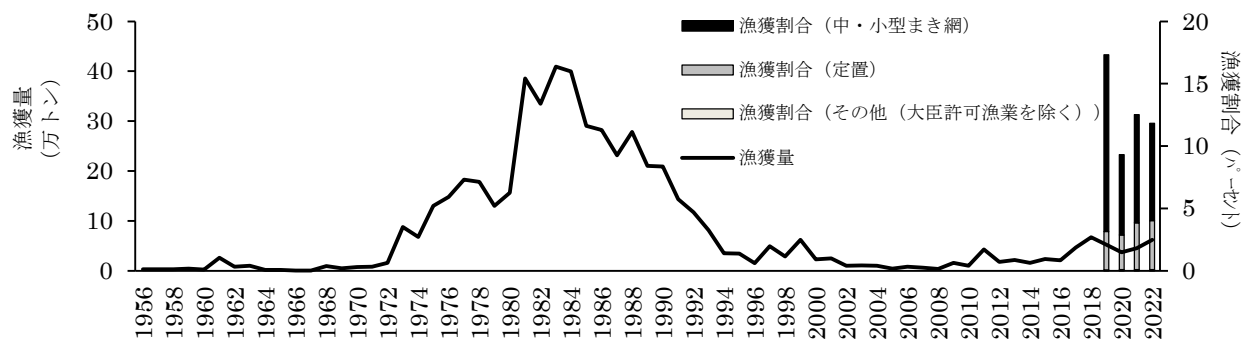


図 1 千葉県におけるマイワシの漁獲量と漁業種類別漁獲割合（海面漁業生産統計調査）

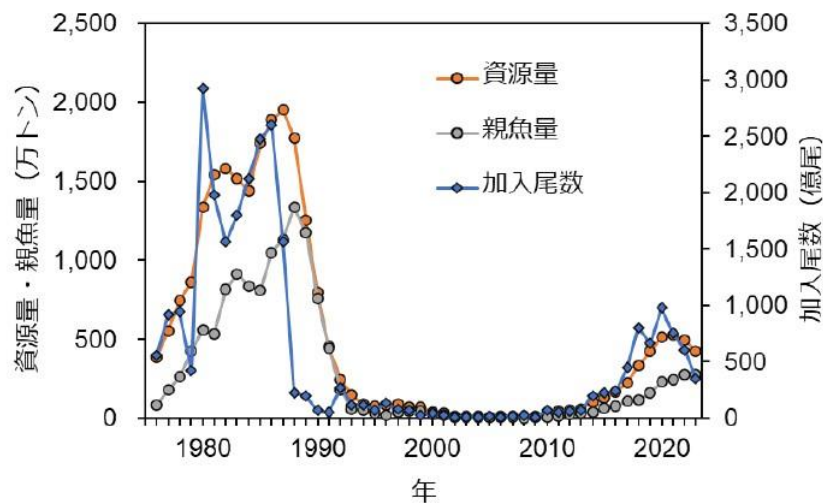


図 2 資源量・親魚量・加入量の推移
(水研機構 HP 令和 6(2024)年度マイワシ太平洋系群の資源評価)

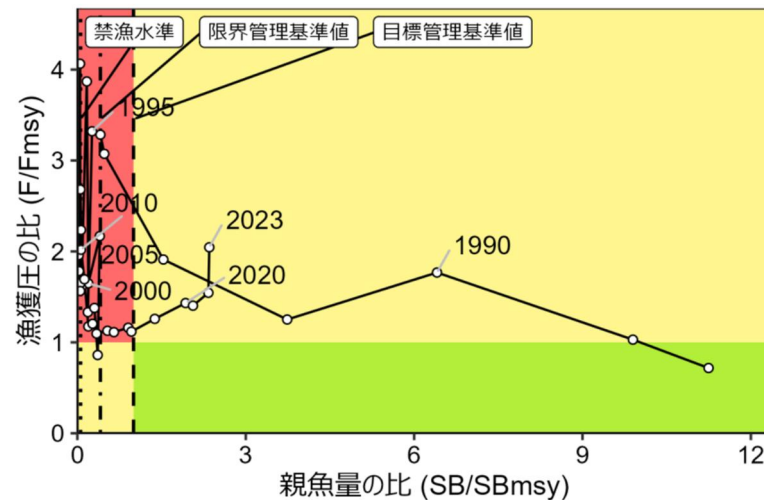


図 3 神戸プロット
(水研機構 HP 令和 6(2024)年度マイワシ太平洋系群の資源評価)

（４）効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

マイワシは、現在の国の資源評価では良好な資源状況とされているが、当該魚種は県を跨いで広域を回遊することや漁場への来遊が海況変化の影響を受けるといった特徴をもっている。今回の検証対象となる協定は「待つ漁業」の定置漁業であるため、海況の影響を受けて沿岸への来遊量が変わった際に、漁獲量が大きく変動する場合が考えられ、国の資源評価と自己点検で異なる結果となった可能性がある。今後も国の資源管理基本方針等の内容を遵守し、現在の取組を併せて継続していくとともに、国の資源評価結果や海洋環境に注視し、状況に応じた対応を検討していくことが必要と考えられる。